

## 2012年度 WLC主催のFDセミナー紹介

## 1. 『第2言語習得における最新の話題：ブレンデッド学習体験』開催

講師 ■ スコット・ソーンブリー(ニュー・スクール大学准教授、ニューヨーク)

2012年10月17日、『第2言語習得における最新の話題：ブレンデッド学習体験』を開催した。このセミナーの目的はブレンデッド学習のアプローチについて情報を提供することであった。ブレンデッド学習は多様な学習状況の下で利用されるようになってきているが、今回のセッションで焦点としたのは、オンライン学習と対面授業のブレンドというテーマであった。

参加者にはセミナーの前にサイト (<http://itdi.pro>) 上の第2言語習得の理論と実践に関するインタラクティブなレッスンを受けてもらった。サイトのITDI (International Teacher Development Institute) は、教員に教育力向上のためのサービスを提供しているオンラインプログラムで、このレッスンには二つの目的があった。ひとつには言語学習理論の初



歩的な概念を紹介し、その知識を踏まえて対面授業をプランニングすることができるようになること。二つ目には、ブレンデッド学習が、レッスンプラン、宿題、EFL・ESLカリキュラムなどにどう取り入れられるか、そのデモンストレーションをすることであった。

プレゼンター略歴:

スコット・ソーンブリーは30年以上にわたり、エジプト、イギリス、スペイン、ニュージーランドなどで英語教師と教員養成を経験し、現在ニューヨークのニュー・スクール大学で英語学の准教授を務める。またITDI教員向上プログラムを主宰している。

ソーンブリー准教授(上記の略歴を参照)は第2言語習得におけるいくつかの主要理論を説明し、教室での実践にどう適応できるかを紹介した。さらにオンライン学習がどう授業を向上できるか、デモンストレーションが行われ、参加教員にとっては担当する授業の改善を考える良いきっかけとなった。

## 2. 『教員、職員及び大学機関の協働の促進』開催

講師 ■ リッチモンド ストゥール教授・福田衣里助教

2012年11月14日、第3回目となる、大学全体に向けたWLC主催のFDセミナーが開催された。このセッションは、「協働」をテーマにしたもので、教員、職員及び大学機関において、協働することで得られる利益や強みについての見識を提供するものであった。協働の成功要因と妨げの要因をあきらかにした上で、協働に関する研究書と、発表者の2人による研究プロジェクトが紹介された。

ストゥール教授によれば、効果的な協働のためには「最低でも2人以上



の同等な立場にいる関係者(教員)が同じ目標に向かって、教育活動や判断基準を共有して行く必要がある。また協働には学部全体、大学全体といった幅広い関係者を含めて考えることができる、という点が指摘された。次に福田助教

からは各学部長を含め、50名以上の教職員が関わった協働に関する調査プロジェクトの紹介があった。

セミナー第2部では、ワークショップを通して、協働によって起こるさまざまな利点、マイナス点について議論した。

## 2013年度前期のおもな活動予定

## ▶セルフアクセスプログラム◀

◆4月5日(金)・8日(月)~12日(金)

Open House (施設見学期間)

10:30-17:00

Chit Chat Club/ WLC Loungeにて

◆4月8日(月)

English Consultation Room (英語学習相談)開始

◆4月15日(月)

Chit Chat Club (初級英会話)開始

English Forum (英語ディスカッション) 開始

Global Village (多言語・多文化交流) 開始

Writing Center (英作文指導) 開始

◆5月7日(火)

iBT Speaking Center

(iBT Speaking練習プログラム) 開始

◆7月下旬(期末試験終わり頃から6日間の予定)

夏期TOEFL/TOEICインテンシブ講座(仮)